

検討の概要

2019年11月14日

東京都 都市整備局

1. 検討の概要 (1) 検討目的・項目

(1) 検討目的

○東京の地域特性に応じた自動運転技術の活用方法を検討するとともに、それらを都市づくりへ展開するため、「自動運転社会を見据えた都市づくりの在り方」を策定する。

(2) 検討項目

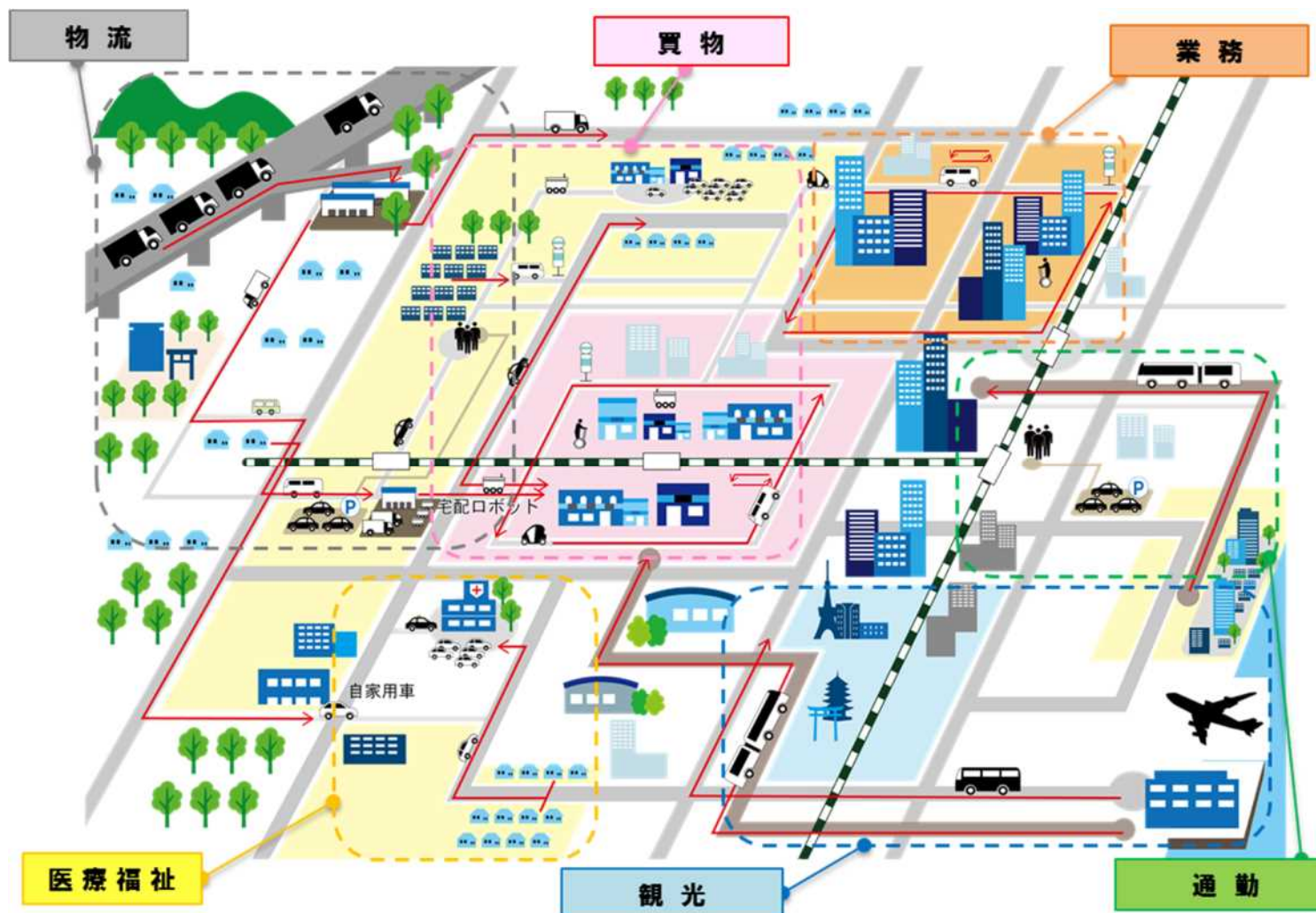
○東京の地域特性に応じた自動運転技術の活用方法の検討
→地域特性・交通課題・ニーズ等に応じた自動運転技術の活用方法(利用場所・目的による活用等)
→多様な交通モードとの連携、ICTの活用方法(効果的な交通・情報サービス等)

○自動運転技術の活用方法を踏まえた都市づくりへの展開の検討
→高速道路・一般道路、駅前広場、駐車場等の在り方(道路横断面構成、駐停車スペース、バス停、情報提供機器等)
→自動運転社会の都市構造(コンパクト+道路・公共交通ネットワーク等)、土地利用(商業・住宅地区等)の在り方

1. 検討の概要 (2)検討イメージ①

<自動運転技術の活用方法の検討イメージ>

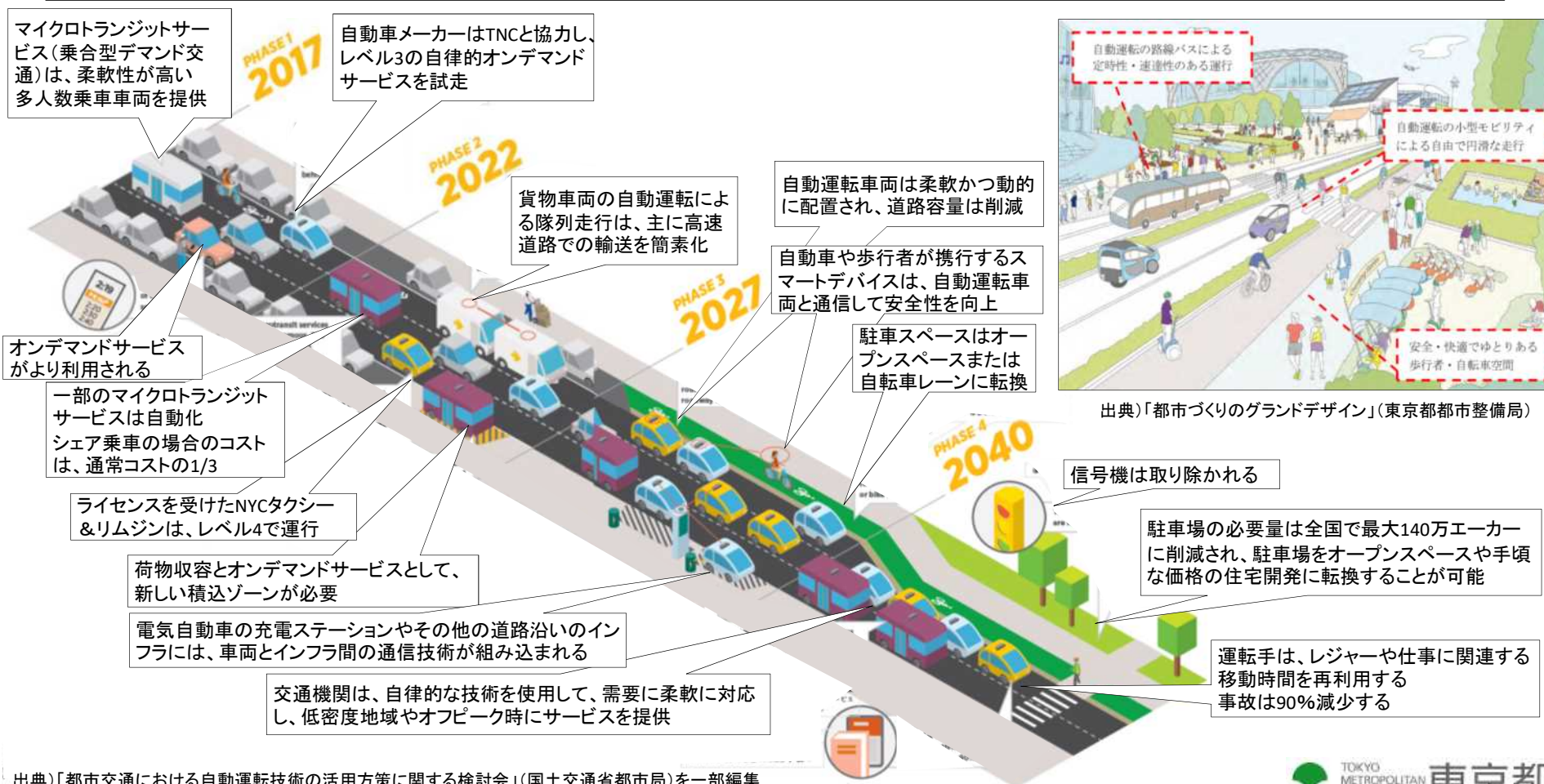
○地域特性・交通課題・ニーズ等に対応し、多様な交通モードやICTと連携した自動運転技術の活用方法を検討



1. 検討の概要 (2) 検討イメージ②

< 自動運転社会の街路空間イメージ >

- 定時性・速達性のある路線バスの運行、自由で円滑な小型モビリティの走行、安全・快適でゆとりのある歩行者・自転車空間等を実現
- 自動運転車両は柔軟・動的に配置され、道路容量は削減、駐車スペースはオープンスペースや自転車レーンに転換



出典)「都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会」(国土交通省都市局)を一部編集

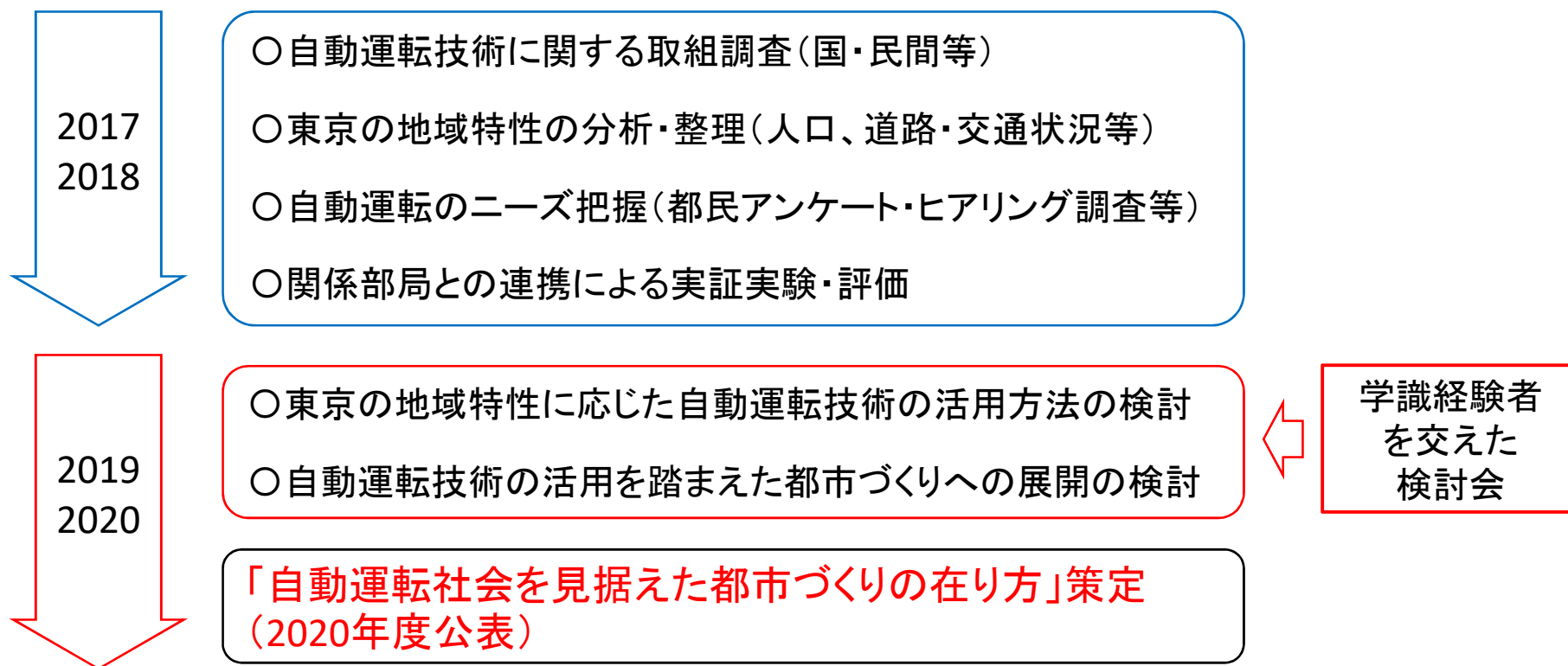
2. 検討経緯

(1) 調査検討の位置づけ

「2020年に向けた実行プラン」(H28.12)

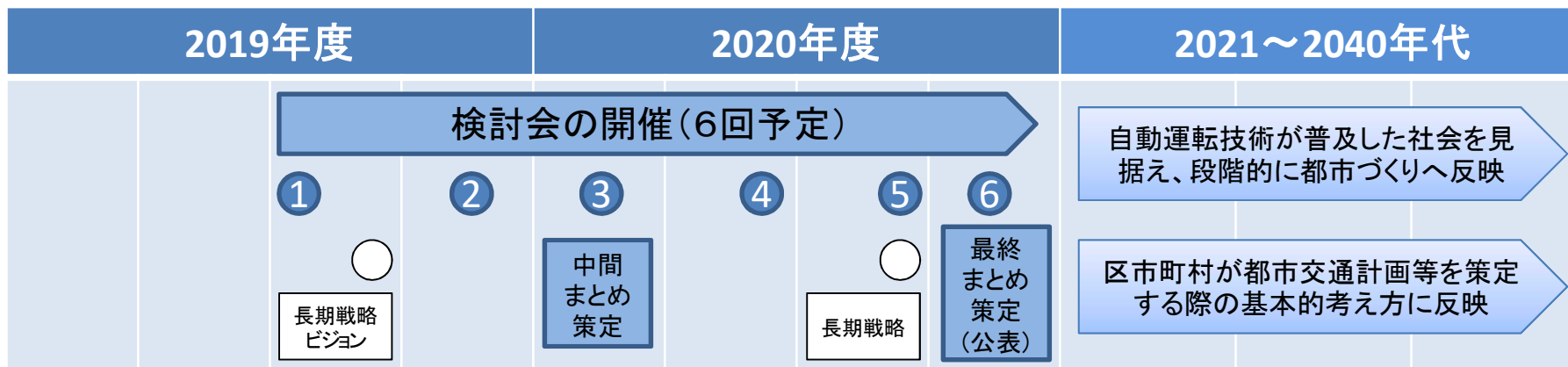
- 自動運転技術が普及した社会を見据えた都市づくりへの展開に向け、都市の道路空間・交通に与える影響・効果、活用方法を調査・検討

(2) 調査検討の流れ



3. 検討スケジュール

- ・2019年度に2回、2020年度に4回の計6回を開催予定
- ・2020年度の前半に中間まとめを策定、2020年度末に最終まとめを策定・公表予定



<検討内容(予定)>

■第1回

- (1) 検討会の設置
- (2) 検討会の検討内容・スケジュール
- (3) これまでの調査結果の報告

■第2回

- (1) 主要施設アンケート調査、実証実験の報告
- (2) 東京の地域特性・課題・ニーズ分析・検討
- (3) 自動運転技術の活用方法の具体検討①

■第3回

- (1) 2020年度の検討内容・スケジュール
- (2) 学識者の講話、民間事業者の取組報告(バス・タクシー等)
- (3) 自動運転技術の活用方法の具体検討②
- (4) 中間まとめ

■第4回

- (1) 国(SIP)の実証実験の報告
- (2) 民間事業者の取組報告(小型モビ・トラック・駐車場等)
- (3) 道路空間及び交通・情報サービス検討
- (4) 自動運転技術の都市づくりへの展開検討①

■第5回

- (1) 都の実証実験の結果報告(自動運転・MaaS)
- (2) 都民アンケート調査・ワークショップ報告
- (3) 自動運転技術の都市づくりへの展開検討②
- (4) 最終取りまとめ(案)

■第6回

- (1) 検討内容・実証実験の最終報告
- (2) 最終取りまとめ

※本内容は、検討状況や議論内容を踏まえて随時見直し

「自動運転社会を見据えた都市づくりの在り方」 とりまとめ(イメージ)

1. 自動運転の基本事項
2. 自動運転の取組状況(国・都・民間等)
3. 東京の地域特性・ニーズ・交通課題
4. 東京の地域特性に応じた自動運転技術の活用方法
5. 自動運転技術の活用を踏まえた都市づくりへの展開
6. 今度の展開(課題・ロードマップ等)

※本内容は、検討状況や議論内容を踏まえて具体的に決定

(参考1) 実行プランにおける位置づけ

- 「スマートシティ」の政策の柱5「交通・物流ネットワークの形成」において、「自動運転技術の活用に向けた取組」を位置づけ
- 自動運転技術が普及した社会を見据えた都市づくりへの展開に向け調査検討を推進



「スマートシティ」

- 政策の柱5:「交通・物流ネットワークの形成」
- 政策展開2:「公共交通の更なる充実と次世代交通システム等の導入」
- 4: **自動運転技術**の活用に向けた取組

◇**自動運転技術**が普及した社会を見据えた都市づくりへの展開に向け、都市の道路交通や道路空間に与える影響や効果、活用方法などについて、国や自動車メーカーなどと連携を図りながら、調査・検討を進めていく。

◇羽田空港周辺地域等を活用した実証実験の実施など、**自動運転システム**の社会実装を加速化するための具体的な方策について、調査・検討を進めていく。

| | 2016年度まで (見込み) | 年次計画 | | | | 4年後の 到達点 |
|--------------------------|--|---|--------|--------|--------|--|
| | | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | |
| 自動運転技術を活用した 都市づくりへの展開 | 「戦略的イノベーション 創造プログラム(SIP) 次世代都市交通WG」に 参加し、国と連携 | 国などと連携し、自動運転を活用した都市の交通に 与える影響や活用方法等について検討 → 基礎調査 | | 検討 | | 自動運転技術 が普及した社会 を見据え、都市 づくりへの 展開を開始 |

- 戦略2「人・モノ・情報の自由自在な交流を実現」における「様々な取組で道路交通を円滑化する」取組として、「自動運転技術の活用」を位置づけ
- その他、「多様な交通モードにより、自由自在な移動を実現する」取組として、交通不便地域において「自動運転等の最新技術を活用」と位置づけ



戦略2:「人・モノ・情報の自由自在な交流を実現」

- 政策方針5:「人・モノがスムーズに移動できるよう道路から渋滞をなくす」
- 取組2:「様々な取組で道路交通を円滑化する」

◇渋滞回避や安全運転などを支援する情報をドライバーにリアルタイムで提供するETC2.0の活用や、有料道路における混雑状況に応じた通行料金の設定を促すことで、渋滞の緩和や事故時の迂回などを可能とし、加えて**自動運転技術の活用**も促すことで、あらゆる自動車交通の定時性・速達性・安全性を高めます。

- 政策方針 8:「鉄道ストックを基軸に誰もが移動しやすいまちをつくる」
- 取組3:「多様な交通モードにより、自由自在な移動を実現する」

◇交通不便地域において、**自動運転等の最新技術を活用**した交通手段の導入を支援します。

- 「多摩ニュータウン再生に向けたまちづくりの方針」の「技術革新への対応」において、「完全自動運転システムの実現」による高齢者等の移動困難性の解消を位置づけ
- その他、再生に向けた取組方針の「主に取り組むべき事項」として、「自動運転の実現に向けた検討」を位置づけ



「多摩ニュータウン再生に向けたまちづくりの方針」

→「再生に向けた9つのまちづくりの視点」

→「技術革新への対応」

◇将来像の実現に向けて対応すべき課題

2040年代の社会の変化を支える技術革新として、**完全自動運転システムの実現**による高齢者などの移動困難性の解消、(中略)、こうした最新技術を積極的に活用したまちづくりを進めていくことが必要である。

◇再生に向けた取組方針

多摩ニュータウンの高質なインフラを有効に活用し、技術革新に対応したフィールドとして位置付け、まちづくりに先進的な技術を取り入れていく。

◇主に取り組むべき事項

自動運転の実現に向けた検討

出典)「多摩ニュータウン地域再生ガイドライン」(東京都都市整備局)